

令和 7年 月 日

事後評価	
○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事業担当課において数値目標の達成状況や事業効果の発現状況を検証し、その結果に至った要因等を分析した。その検証結果を踏まえ今後の方針を検討するとともに、その評価に透明性、客観性、公正さを反映させるため、学識経験等を有する第三者による事後評価委員会に意見を求めた。	令和7年度 公表の方法 市ホームページにより公表

1. 交付対象事業の進捗状況

上段：計画
下段：実績

関連社会資本整備事業				直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象							R2	R3	R4	R5	R6		
											合計					

C	效果促進事業
---	--------

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況							
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		・都市計画道路の建設等に合わせた雨水管渠の整備により、都市浸水対策達成率が49.0％（R2当初見込み）から49.2％（R6末）に向上した。（＋0.2％） ・ストックマネジメント計画の策定については、施設の適切な維持管理及び管理経費の抑制を図るための点検・調査、改築周期などを盛り込んだ計画ができた。					
II 定量的指標の達成状況	指標①（下水道による都市浸水対策達成率）	最終目標値	49.1％	算定式	$\frac{1,276\text{ha}(\text{※1})}{2,597\text{ha}(\text{※2})}$	目標値と実績値に差が出た要因	定量的指標（下水道による都市浸水対策達成率）について、目標を達成することができた。 都市計画道路建設事業の進捗状況に合わせて整備を積極的に進めた結果、整備率を向上させることができた。また、近年の浸水状況を把握し浸水対策を実施したことで整備率のさらなる向上に繋がった。
		最終実績値	49.2％ (49.8％) (民間開発込み)	算定式	$\frac{\text{計画期間5年間の増減} \quad 1,277\text{ha}(\text{※3}) \quad [+3\text{ha}]}{(1,293\text{ha})(\text{※3}') \quad (+19\text{ha})} \div 2,597\text{ha}(\text{※2})$		
	指標②（ストックマネジメント計画の策定進捗率）	最終目標値	－	算定式	－	目標値と実績値に差が出た要因	計画どおり、ストックマネジメント計画を策定することができた。
		最終実績値	－	算定式	－		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		【指標①】 ・都市計画道路建設事業と連携して雨水管渠整備を行ったため、舗装復旧工の削減など、事業費が縮減できた。 ・過去10年において、下水道管渠(雨水)の能力不足による重大な浸水被害(床上浸水)等は発生しなかった。 【指標②】 ・ストックマネジメント計画の策定により、下水道施設の点検・調査を計画的に進めることに繋がった。					
3. 特記事項（今後の方針等）							
＜指標の数値について＞ 【指標①】 (※1)計画策定年度(R元年度)における、計画最終年度(R6年度)の浸水対策済み面積の目標値 (※2)浸水対策を実施すべき面積 (※3)計画最終年度末(R6年度末)における浸水対策済み面積の実績値（民間開発含まず） (※3')計画最終年度末(R6年度末)における浸水対策済み面積の実績値（民間開発込み）							
＜雨水管渠整備事業＞ ・引き続き都市計画道路建設事業や北信太駅前整備事業と連携し効率的に整備を行う。 ・引き続き浸水状況を的確に把握し、既存施設の活用を図りながら効率的な雨水管の整備を図る。							
＜ストックマネジメント計画策定及び策定に伴う調査等＞ ・ストックマネジメント計画の策定はR元年度からR2年度の期間で作成した。 ・下水道施設の点検・調査を行い、修繕・改築を進める。							